# 就業力育成をめざして

## ー　大学祭実行委員会の行事活動を通しての実践報告　ー

菅瀬　君子[1]、川口　潤子[1]、龍田　健次[2]
[1]愛知学泉短期大学、[2]愛知学泉大学

# Toward Developing Employability

## - A Report on How Working in Prepartion for Campus Events by "The Students' Executive Committee for The University Festival" Contributes to The Goal -

Kimiko Sugase,Junko Kawaguchi,Kenji Tatsuda

キーワード：就業力　employment power、大学祭　The University Festival 、実践　practice

### １．はじめに

日本経済団体連合会の企業調査によると､「大学教育に期待するもの」は、文科系・理科系を問わず「倫理的思考や課題解決能力を身につける」「チームを組んで特定の課題に取り組む経験」「実社会や職業との繋がりを理解させる教育」などの回答が上位に挙がったと報告している。また、最近の大学生に不足していると思われる素質・態度の質問には、「主体性」を挙げた企業が最も多く、次いで「職業観」、「実行力」という報告をしている。[1)] 筆者らが学生会顧問・副顧問という校務に２年間（平成22年・23年）携わり、本学の大学祭実行委員会委員と関わる中で、学生たちが一つひとつの行事について企画･運営し行う過程を見て感じたことは、企業が大学教育に期待するものの中の特に「チームを組んで特定の課題に取り組む経験をさせる」ということを実践し、そこでの成果が見られると強く感じたことである。授業で取り組む行事ではなく、地元企業との産学連携プロジェクトでもなく、学生たちが自ら進んで集った組織での活動の中にも、企業が大学教育に期待するもののいくつかを実践できることが学内での行事の中にもあり、大きな成果を生むことができる場がある。

今回は、その一つの事例として、大学祭実行委員会の行事活動の取り組みの実践報告と就業力についてのアンケートを実施したのでその結果を報告する。

### ２．本学における大学祭実行委員会の概要

本学岡崎学舎は、家政学部生と短大生が共同で種々の活動を行っている。その組織は、学生会の組織下に大学祭実行委員会があり活動をしている。委員数は毎年 70 名程度（平成 22 年：78 名、23 年：75 名）である。組織の部署は、①実行委員長、②副委員長、③会計、④総務、⑤運営、⑥コンサート、⑦企画、⑧情報宣伝の８部署で組織され、それぞれの部署にチーフを置き部署の取りまとめを行っている。チーフ会および委員全体会は週１回行われる。イベント開催１ケ月前は､週５回程度の会合が行われる。特に大学祭の１カ月前のチーフ会は、連日夜遅くまで話し合いが行われ、深夜に及ぶこともある。活動は主に学内での行事を企画し、そのメインイベントが“大学祭”である。大学祭は、学生たちには“学泉祭”の名称で親しまれ、特に各部署のチーフは対外的な仕事が多く、イベントに関係する企業や出店者との交渉、近隣の学校や近隣住民への挨拶などを行い、それら関

係者への挨拶状、契約書、依頼状、案内状の作成など、社会的・職業的自立を図るために必要な事柄が存在する。その他、他大学大学祭への参加、入学式祭、夏祭りなど“祭”に関わるイベントを企画・運営する。

## ３．対象者とアンケート調査

調査対象者は、本学の大学祭実行委員会に所属する学生（家政学部・短大）58 名。アンケートの実施は平成 24 年 2 月、年間の行事が終了し、次期年度への引き継ぎが行われる時期に実施した。アンケート用紙を配布し記入後回収をした。回収率は 77.3％であった。就業力育成に関するアンケートの質問項目は、日本社会事業大学、就業力育成支援 GP 推進委員会が実施したアンケートの質問項目を一部引用した。[3)]

## ４．大学祭実行委員会の年間行事と内容

実行委員会の年間行事は、前期は新入生の委員会への勧誘、チームワーク力つくりと夏祭りに向けての準備のため、他大学大学祭への参加をする。7 月学内夏祭りが主な行事である。後期は学泉祭が主で、その他、国際交流の一環として韓国烏山大学大学祭への参加、岡崎市学生フォーラムへの参加がある。

前期「夏祭り」の企画には、子供たちに大人気で毎年長蛇の列ができるカブトムシ抽選会（写真１・学内教職員協力のもとメンバーが40匹程のカブトムシを捕りに行き一匹ずつ虫カゴに入れプレゼントする）、大人に人気の餅投げ

（写真１：カブトムシ抽選会）

（写真２：餅投げ）

（写真２・袋に入った餅に番号札が入れられ、豪華賞品がゲットできるという仕組みになっている）、祭りの最後に、地元の祭りＮＰＯの協力により花火が打ち上げられる。地域住民に浸透し、年々参加が増加。後期、大学祭に向け夏休み返上で準備をする。それぞれの部署チーフが中心となり活動スケジュールを立て、部署単位で活動をする。大学祭の顔でもある看板や垂れ幕つくりは運営が担当し、看板や垂れ幕には、それぞれ思いや意味が込められている。ステージ上幕の「愛」という字は、「ありがとう」の隠し文字で作られている（写真３・写真４）。

（写真３：メイン看板）

（写真４：ステージ上幕）

（写真５：パンフレット　第４８回・４９回）

このように、アイデアや作る人の思いが込められている。パンフレットやポスターは、コンピュータ演習授業で学んだイラストレータ、フォトショップで作成し、情報宣伝部署が担当をする。８月中に原稿を印刷業者に渡し、校正をして１０月上旬に納品という予定で完成する（写真５）。ステージ上で行われる企画ひとつひとつには、進行、準備物、ＣＤ音量、照明、参加者･司会者の配置が示された企画書が作成され、それに基づき実行される。また､大学祭当日は、70人にも及ぶ委員一人ひとりの行動が把握できるよう、表１に示したシフト表が作成され、それに基づき行動する。部署名・名前・時間・仕事内容が記載され、このシフト表に従って行動をする。イベントを行う際には欠かせないものである。このようなシフト表が、大学祭前日の準備日・当日（1日目・2日目）・片づけ日の４日間分が作成される。大学祭は２日間開催されるが､この２日間の大学祭を成功させるために、多くの準備時間を費やし、深夜まで話し合いがもたれ、時には壁にぶつかり、お互い意見の違いがありぶつかり合うこともある。活動過程でいろいろな問題が起こるが、空中分解することはない。なぜなら、どんなに言い合いをしてぶつかり合っても、そこには全員が“大学祭を成功させたい”という熱い想いと“何としてでも成功させる”という目標があるからだ。我々顧問・副顧問は、問題が起きた時、素早く解決するためのアドバイスをするだけで、全て学生たちが自らの力で問題を解決していく手作りの大学祭である。

表１　シフト表（学泉祭　第1日目）

部署名・学年・名前　　時間 7:00スタート　　個人の仕事内容

| | | | 7:00 | 7:30 | 8:00 | 8:30 | 9:00 | 9:30 | 10:00 | 10:30 | 11:00 | 11:30 | 12:00 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 企　画 | 3 | 荒川　真名美 | 朝食 | | | ステージ準備 | | リハーサル | | ステージ準備 | | | |
| | 2 | 中島　由利恵 | 朝食 | | | ステージ準備 | | リハーサル | | ステージ準備 | Opening | オケ準備 | バンド準備 |
| | 2 | 霞井　友美 | 朝食 | | | ステージ準備 | | リハーサル | | ステージ準備 | Opening | オケ準備 | バンド準備 |
| | 2 | 土谷　留充 | 朝食 | | | ステージ準備 | | リハーサル | | ステージ準備 | Opening | オケ準備 | バンド準備 |
| | 2 | 保刺　美紗稀 | 朝食 | | | ステージ準備 | | リハーサル | | ステージ準備 | Opening | オケ準備 | バンド準備 |
| | 2 | 松原　桂子 | 朝食 | | | ステージ準備 | | リハーサル | | ステージ準備 | ＭＣ | オケ準備 | バンド準備 |
| | 1 | 佐藤　絵美 | 朝食 | | | ステージ準備 | | リハーサル | | ステージ準備 | Opening | オケ準備 | バンド準備 |
| | 1 | 音内　彩乃 | 朝食 | | | ステージ準備 | | リハーサル | | ステージ準備 | ＭＣ | オケ準備 | バンド準備 |
| | 1 | 佐野　食紀 | 朝食 | | | ステージ準備 | | リハーサル | | ステージ準備 | Opening | オケ準備 | バンド準備 |
| | 1 | 鈴木　涼子 | 朝食 | | | ステージ準備 | | リハーサル | | ステージ準備 | Opening | オケ準備 | オケ片付け |
| | 1 | 中橋　唐翼 | 朝食 | | | ステージ準備 | | リハーサル | | ステージ準備 | Opening | オケ準備 | オケ片付け |
| | 1 | 野口　拓海 | 朝食 | | | ステージ準備 | | リハーサル | | ステージ準備 | Opening | オケ準備 | オケ片付け |
| | 1 | 本田　尚己 | 朝食 | | | ステージ準備 | | リハーサル | | ステージ準備 | Opening | オケ準備 | バンド準備 |
| | 1 | 吉田　明日香 | 朝食 | | | ステージ準備 | | リハーサル | | ステージ準備 | Opening | オケ準備 | オケ片付け |
| | | | 7:00 | 7:30 | 8:00 | 8:30 | 9:00 | 9:30 | 10:00 | 10:30 | 11:00 | 11:30 | 12:00 |
| 情　宣 | 3 | 河合　史織 | 朝食 | | 調理室準備 | 固定カメラ設置 | 調理室見回り | | 第2調理室警備 | | 第1調理室警備 | | |
| | 1 | 金子　真銘 | 朝食 | | 調理室準備 | 第1調理室警備 | | | カメラ | | OPENING撮影 | ビデオ | |
| | 1 | 眞沢　麻優美 | 朝食 | | 調理室準備 | 第2調理室警備 | | | 訪問実習室警備 | | OPENING撮影 | カメラ | |
| | 1 | 佐藤　彩乃 | 朝食 | | 調理室準備 | 訪問実習室警備 | | | 第1調理室警備 | | OPENING撮影 | 第2調理室警備 | |
| | | | 7:00 | 7:30 | 8:00 | 8:30 | 9:00 | 9:30 | 10:00 | 10:30 | 11:00 | 11:30 | 12:00 |

## ５．アンケート調査結果・考察

「就業力」という言葉を聞いたことがあるか、の質問回答では、ある 18%、ない 82%であった。また、「就業力」の意味を知っているか、の質問回答では、知っている 9%、知らない 91%であった。大半の者が聞いたことも意味も知らないという結果であった。

就業力育成に関するアンケートの質問項目を表２に示した。

14 項目の中で、あなた自身が一番身についたのはどれか、の質問に対しての結果を図１に示した。最も多かった項目は、②自分と周囲の関係を理解し関わり方がわかるであった。実行委員会活動では話し合いを持つ機会が多々あるため、話合いの回数を重ねることによって他者との信頼関係を築くことができ、その中で他者との関わり方を理解するものと思われる。次いで①主体的に取り組むことができる、⑩違う立場や意見を理解できるであった。この⑩の項目に関しても、先輩・後輩、同じ学年同士、顧問・副顧問、外部の人との関わりを通して理解し合うことを学ぶものと思われる。そのため、②⑩の項目が上位に挙がってきたものと伺えた。

そこで、実行委員会活動を通して、就業力が身についたと思えることはどのようなことか、を質問し記述させた。その結果を表３に示した。このことから、人との関わり方、人の意見を聞く力、チームワークの大切さ、課題に取り組む力、問題を解決する力、協調性などのキーワードがあがった。特に、課題に取り組む力や問題を解決する力は、日本経済団体連合会の企業調査によるところの、大学教育に期待する「問題解決能力を身につける」、「チームを組んで特定の課題に取り組む経験」を実践していることになる。

実行委員会活動を通して、達成感、充実感はあるか、質問をした。回答方法は、1 大変ある、2 ある、3 普通、4 あまりない、5 ない、の 5 段階評価で回答を得た。その結果を図２に示した。達成感については、大変ある 79%、ある 15%、普通 6%。充実感については、大変ある 79%、ある 18%、普通 3%で、いずれも、ない・全くない、の回答は 0%であった。達成感、充実感が持てたということは、一生懸命みんなで取り組んだことの証であり、強いては自信につながる。つまり、実行委員会活動を通して就業力育成に必要な能力を身につけることができるうることが分かった。

**表２．就業力育成についてのアンケート項目**

| 質問項目 |
|---|
| ① 主体的に取り組むことができる |
| ② 自分と周囲の関係を理解し、関わり方がわかる |
| ③ 他者の意見を丁寧に聴いて、理解することができる |
| ④ 自分の意見を分かりやすく他者に伝えることができる |
| ⑤ 目標を設定し、問題解決に向けて計画的に遂行できる |
| ⑥ 社会の一員としての自覚に基づいた行動をとることができる |
| ⑦ 社会の問題や出来事の背景を多面的に把握しようとする |
| ⑧ 行政機関、法人、団体、施設等の社会的役割・機能を理解している |
| ⑨ 専門知識が身についている |
| ⑩ 違う立場や意見を理解できる |
| ⑪ 現状を分析し、課題を明らかにすることができる |
| ⑫ 自分の考えをもつことができる |
| ⑬ ストレスを感じ取り、これに対処することができる |
| ⑭ 現場／職場を具体的にイメージできる |

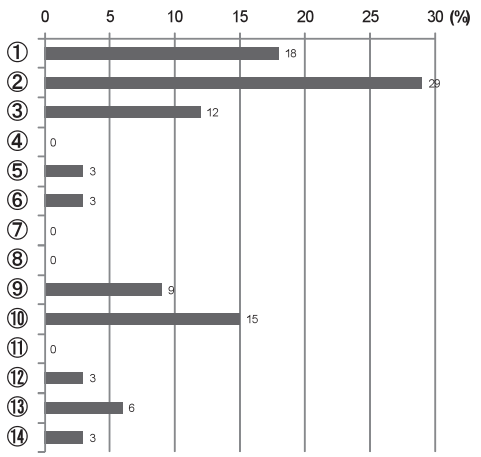


**図1　就業力育成14項目のうち、一番身についた項目は何か**

表３　　就業力が身についたと思えることはどのようなことか

| 内　　容 |
|---|
| ・いろいろな作業をする中で、今まで知らなかったことを知り、それを他のことに活かせることができる |
| ・話し合いをする時、他者の意見を聴き、意見を言えるようになった |
| ・大学生活だけでなく、プライベートやアルバイト中などでも意識するようになった |
| ・パンフレット作成時に、自分だけではなく、他の部署のチーフ、企業の人、お客さんにどう見えるか、他者の考え方を踏まえて作業をすることができる |
| ・50～60 人が毎年所属する実行委員会には色々な人がいる。その中で周囲との関わり方を勉強した |
| ・話し合いから人の意見を聞き、冷静に話し合わなければ解決しない場面があることを知ることができた |
| ・チーフ会の時、それを話し合った後の運営の仕方 を考え行動することができるようになった |
| ・先輩、後輩の関係を築く上で、どう接するのが良いのか少しずつ理解し身についた |
| ・話し合いの中から、人の意見を理解した上で、自分の意見を持てるようになった |
| ・自分の意見だけをおしつけることがなくなった |
| ・部署の仕事の時に自分の意見と後輩、先輩の意見をふまえて考えなければいけない場面がよくあった |
| ・いろんな部署があり、多面的な仕事があるため人の意見を聞くようになった |
| ・年上の人（業者など対外的な面）に対する対応など身についた |
| ・実行に入って社会で生きていくために必要な、感謝、敬語、尊敬という人に対する気配りを身につけた |
| ・実行委員に入り、多くの人達と関わるようになり勇気を持つことを意識しだしました |
| ・自分ひとりがて勝手に仕事をしてしまうと他の人に仕事面で迷惑がかかることを知り、チームワークの大切さを身につけた |
| ・多くの人と協調し合って活動していく実行委員会の活動で、協調し合う大切さが身についた |
| ・全員が納得いくには、他者の声を聴き理解し伝えてあげることだと感じた。これができないと、人は離れていく気がする |
| ・チーフという立場を経験して、問題を解決する力が身についた |

## ６．まとめ

本学大学祭実行委員会委員へのアンケート調査結果より､実行委員会が行う学内行事である、夏祭り、大学祭の活動を通して、人との関わり方､人の意見を聞く力､チームワークの大切さ、課題に取り組む力、問題を解決する力、協調性を身につけることができると回答していることから、大学教育に期待する「問題解決能力を身につける」、「チームを組んで特定の課題に取り組む経験」を実践している。大学生に不足していると思われる素質・態度が、学内での行事活動を通して実践できることが分かった。そこに携わる学生に、意識・理解させ活動する指導の必要性と行事、サークル活動、ボランティア活動など学生生活のあらゆる活動が学生の就業力育成には欠かせない場であることを、学生に認識させることの重要性を強く感じた。そのためには、教員・職員が一体となり学生を支援し育てていく体制が必要である。

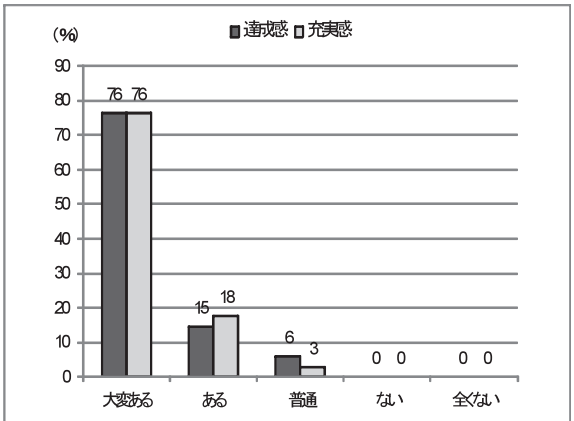

図2　活動を通しての達成感・充実感はあるか

引用文献

１）「産業界の求める人材像と大学教育への期待に関するアンケート結果」（社）日本経済団体連合会、16-18（2011）

２）八木ありさ・小宮明子：「就業力育成支援事業に関するアンケート（2011 年度版）に関するまとめ」、日本社会事業大学（2011）

参考文献

・喜久里　要：就業力育成に向けた大学の取り組みへの期待、日本ビジネス実務学会第 31 回全国大会（2012）

・リクルートカレッジマネジメント：大学で身につける就業力とはⅡ（2011）